

単元名 「『遠くへふわっと』のヒミツを探そう！」（第3学年 C走・跳の運動 ウ 幅跳び）

■本事例のポイント

- 全員が跳ぶ楽しさや喜びを味わえる環境づくり。（能力差や子供の課題に応じた練習場所・記録の可視化）
- 技能のポイントを見付け出し整理することで課題意識を明確にする。（3局面のヒミツを見付け出し整理する）
- 1人1台端末を活用したデータの共有により学習調整を促す。（子供同士の学習課題や振り返りシート、映像等の共有）

■単元の目標

- 幅跳びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができる。
- 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動を選び、考えを友達に伝えることができる。
- 幅跳びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気付けたりすることができる。

■単元の指導計画（6時間）

第1小单元（2時間）

「遠くへ跳ぶためのヒミツをたくさん探す」

- ・幅跳びの行い方を知り、記録をとる。
- ・グループごとにヒミツを探す。



第2小单元（2時間）

「助走・踏切・跳び方の名人になる」

- ・3局面のヒミツをまとめる。
- ・身に付けるための練習をする。

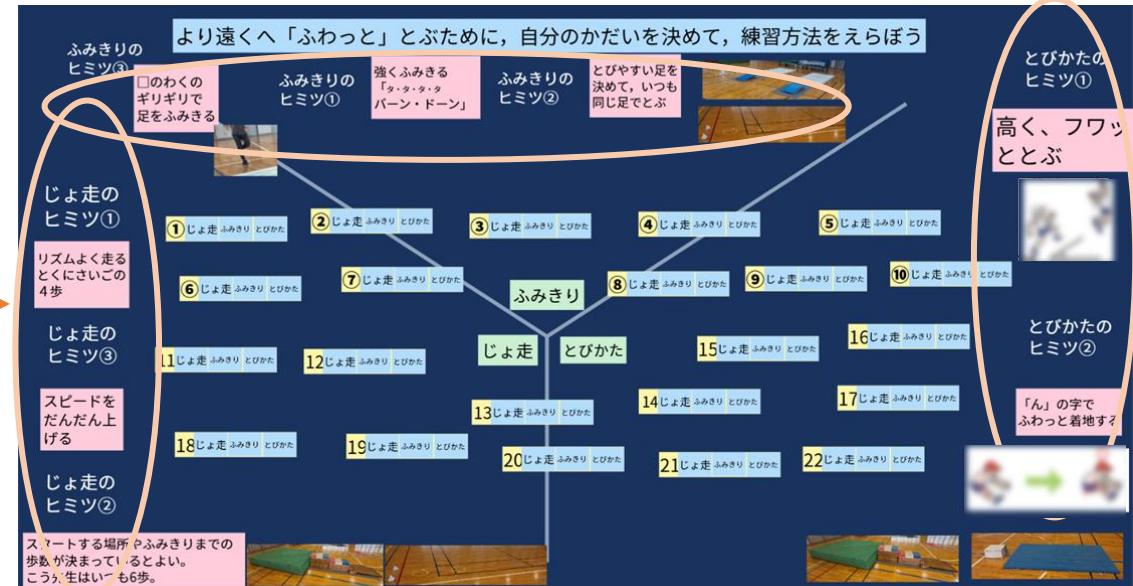
第3小单元（2時間）

「課題を決めて、練習方法を選ぶ」

- ・遠くへ「ふわっと」跳ぶために、課題を決めて、練習方法を選ぶ。
- ・友達にアドバイスして、よりよい記録を目指す。（記録会）

■本時の概要

子供が学習課題を選択・決定する場面



■学習調整をしている子供の姿

子供が学習課題を選択・決定する場面



飛び方に課題があるから、
3段跳び箱の場を選んで
練習しよう！

子供が自らの学習を振り返る場面の設定



毎時間の終末には、
測定と動画撮影を行
い記録
振り返りをしました。



■指導と評価の工夫

①子供の選んだ課題と練習場所を全体で共有

- *教師は、子供が選択した課題と練習場所を把握できる。
- *子供は、自分の課題と練習場所を明確にできる。



②グループごと振り返りカードを作成、毎時間記録と振り返りを記入

- *毎時間の成果と課題、映像を蓄積し、いつでも見られるようにする。
- *他者参照することで、自分の振り返りを見直せる。グループの友達の学習状況を把握できる。

20点	①20てん	①10点	①30点	①きろく(点)	80点
最初は簡単だ と思ったけどむずか しかったです。	最初は、むずかしい なと思いました。	もうちょっと助走 をつけたかったです。	もうちょっととび たかったです。	①ふりかえり	100てん
50点	50点	50点	70点	②きろく(点)	③(点)
手を高くふつたら 高く飛べました。	上は、助走が、つ けたので、それを つづけたのです。	今日は、助走が、つ けたので、それを つづけたのです。	手を高く上げあ り、両手の白い衿のギリ ギリにジャンプしたこと ができた。	②ふりかえり	④(点)
③きろく(点)	③きろく(点)	③きろく(点)	③きろく(点)	③きろく(点)	⑤(点)
③ふりかえり	③ふりかえり	③ふりかえり	③ふりかえり	③ふりかえり	⑥(点)
④きろく(点)	④きろく(点)	④きろく(点)	④きろく(点)	④きろく(点)	
④ふりかえり	④ふりかえり	④ふりかえり	④ふりかえり	④ふりかえり	
⑤きろく(点)	⑤きろく(点)	⑤きろく(点)	⑤きろく(点)	⑤きろく(点)	
⑤ふりかえり	⑤ふりかえり	⑤ふりかえり	⑤ふりかえり	⑤ふりかえり	
⑥きろく(点)	⑥きろく(点)	⑥きろく(点)	⑥きろく(点)	⑥きろく(点)	
⑥ふりかえり	⑥ふりかえり	⑥ふりかえり	⑥ふりかえり	⑥ふりかえり	

■成果（○）と課題（▲）

- 子供が主体的に技能のポイントを見付け出し、整理することで課題意識が高まった。
- それぞれの目標に応じた練習場所を設定したことにより、自分のやりたいコースを選んで意欲的に取り組む子供の姿が見られた。
- 共有ノートを通じて、子供同士が意見や練習方法を共有し、互いに助け合う姿が見られた。
- ▲協働的な学びを促すためには、自身の動画を見るだけでなく、子供同士で動画を見合って意見交換できる場を設けるなどの工夫が必要であった。
- ▲自分で決めた課題に合った場を選択できるように、小学3年生の段階では、教師による丁寧な説明と助言が必要だった。